



SHIZUOKA BANK

静岡銀行

What's SHIZU-GIN?

第114期 営業の中間ご報告

2019
DECEMBER

第13次中期経営計画

Tsunagu
～つなぐ



地域とともに新たな価値を創造し続ける 「しずぎん」

Top Message



企業理念 地域とともに夢と豊かさを広げます。

最初に「令和元年台風第19号」で被災された皆さまに謹んでお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

私たち静岡銀行グループも、復興に向けた取り組みを誠心誠意ご支援してまいります。

南アフリカの優勝で閉幕したラグビーワールドカップでは、日本代表が初のベスト8に輝く見事な戦いぶり、日本中に勇気と感動を与えてくれました。なかでも、エコパスタジアムで強豪アイルランドを撃破した「静岡ショック」はラグビー界に新たな歴史を刻みました。

このラグビーワールドカップの経済効果は、開催前の試算によれば、日本国内では4,300億円、静岡県内では120億円といわれています。ここ静岡県は来年のオリンピックにおいても自転車競技の舞台に選ばれるなど、ビッグイベントが続きますが、将来にわたり豊かな地域社会を創り上げるためには、これを一過性の経済効果で終わらせることなく、地域経済の将来の活力につなげる必要があります。そのためには、地方創生に携わる「産官学金労言士」の連携のもと、「インバウンドをいかに受け入れ、おもてな

しをするか」そして、「地域のファン、リピーターになっていただき、地域の将来につなげるか」が大切な要素となります。私たち静岡銀行グループも、地域の一員として、関係者の連携を高めるコーディネーターの役割をしっかりと果たし、オリンピックに向けて地域の一体感を醸成してまいります。

さて、静岡銀行グループでは、最終年度を迎えた第13次中期経営計画「TSUNAGU ～つなぐ～」において、いかなる環境においても常に地域に寄り添い、地域とともに成長を続ける力強い総合金融グループの実現をめざしています。私たちを取り巻く環境は、長引く金融緩和にくわえ、人口減少や高齢化の進展にともなう社会構造の変化、テクノロジーの進化を背景とする異業種の銀行業参入やキャッシュレス化の進展など、従来のビジネスモデルでは持続可能性を見出しにくい状況にあります。

しかしながら、地域経済の発展なくして、地域金融機関の持続的な成長はあり得ません。こうした観点から、2019年度上半期も地域経済の活性化に向けたさまざまな施策に取り組みました。

一例をあげますと、本年7月、静岡県と共催でビジネスマッチングフェア「TECH BEAT Shizuoka」を開催しました。これは、AIやIoT、ICTなど先端テクノロジーの活用が企業の持続的成長に欠かせない要素となるなか、テクノロジーに強みをもつ首都圏のスタートアップ企業と県内企業とのネットワーク構築やマッチング機会の提供を通じて、静岡県の産業活性化や新たな産業創出をめざすものです。開催期間中の来場者は約3,300名に達し、個別商談も328件行われるなど、盛況のうちに終えることができました。引き続き、参加企業のフォローアップに努めるとともに、スタートアップ企業のもつさまざまな技術やノウハウを広く地域企業の皆さまに紹介することで、静岡県経済の将来につながる取り組みに育てていきたいと考えています。

来年はいよいよオリンピックイヤーを迎えます。私たち静岡銀行グループでも、新たに第14次中期経営計画をスタートさせる大切な年となります。

基本理念「地域とともに夢と豊かさを広げます。」のもと、静岡銀行グループの総力を結集し、時代の変化に先駆けた果敢な挑戦を通じて、地域の皆さまとともに確かな未来を切り拓いてまいります。

皆さまにおかれては、変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

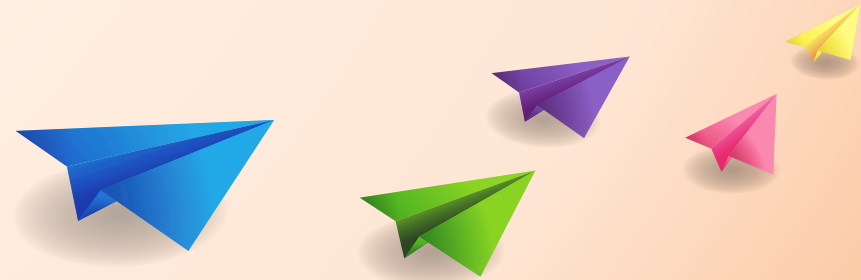
Contents



1 Top Message	9 営業のご報告	14 地域社会への貢献
3 第13次中期経営計画	13 Shizugin-ship	17 第114期 営業の中間ご報告
5 Topics	11 決済手段の多様化への対応	21 決算情報
7 地方創生への取り組み		

頭取 柴田 久





ビジョン Innovative Bank ~地域とともに新たな価値を創造し続ける「しずぎん」

4つの基本戦略を「コアビジネス」「首都圏」「ネーションワイド」の3つの事業領域で推進します。

あわせて、「収益」「人」「チャネル」の3つの構造改革に取り組み、ビジョンを実現します。

4つの基本戦略

- ① 地域経済の成長にフォーカスしたコアビジネスの強化
- ② 事業領域の開拓・収益化による地方銀行の新たなビジネスモデルの構築
- ③ チャネル・IT基盤を活用したセールス業務の変革
- ④ 地域、お客さま、従業員、株主の夢と豊かさの実現を応援する

事業領域

コアビジネス
(静岡県を中心とする地域)

首都圏

ネーションワイド
(全国展開)



構造改革



ビジョン
Innovative Bank
の実現

付加価値の高いサービスの提供をめざして ~持続的成長につながる新たな

ビジネスモデルの創造

多様化、複雑化するお客さまのニーズにお応えするため、異業種企業との連携を通じた総合金融サービスの提供に努めています。

異業種企業との新たなビジネスを展開



資本業務提携

リーウェイズ株式会社 (2019年6月 資本業務提携)

AI(人工知能)技術を不動産関連融資に活用

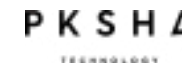
- 静岡銀行における新たな不動産評価システムの開発
- お客さまの資産形成をサポートするための付加価値の高い金融サービス等の企画・開発
- 全国共通の不動産審査プラットフォームの共同開発



株式会社PKSHA Technology (2019年7月 資本業務提携)

AI(人工知能)技術を活用した新たな金融サービスの開発

- AIを活用した最先端の金融事業やサービスの開発
- AI活用の共同研究
- AIの知識習得と事業化を目的とした人的交流



提携・パートナーシップ

BASE株式会社 (2019年7月 ビジネスマッチング契約)

Eコマース(電子商取引)を活用した販路拡大等を支援

- ネットショップ作成サービス「BASE」の活用による販路拡大支援
- 「BASE」導入に関するセミナーの開催および個別相談等への対応
- 「&BASE」オフィシャルパートナー企業*を通じた販売戦略支援



*ネットショップ作成や運営等をBASEとともに支援する制作会社や企業支援団体

「TECH BEAT Shizuoka」を開催

2019年7月、静岡県内企業とスタートアップ企業をつなぐ「TECH BEAT Shizuoka」を開催。首都圏などから最先端のテクノロジーをもつ企業48社がブースを出展し、展示スペースでそれぞれの技術や製品、サービスの特徴をPRするとともに、個別商談スペースでは活発な商談が行われました。

【開催日】2019年7月24日～25日
 【会場】グランシップ(静岡市)
 【来場者数】3,300名
 【個別商談】328件
※事前商談予約数



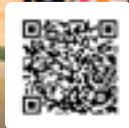
トレジャーデータ(株) 池内聖子氏

静岡県は製造業や工場などが多いイメージがあり、日本の産業技術を支えてきた会社が多くあると感じています。その意味では、これからのイノベーションも、こうした皆さんが起爆剤となっていかれると思いますので、ぜひ、私たちがそのお手伝いをさせていただきたいと考えています。

(株)オクト (&ANDPAD) 岡田正輝氏

会場内は熱気があり、多くの来場者から熱心な質問をいただくなど、この先につながる手応えを感じています。また、皆さんのお話しを通じて、従来の取引業界である住宅建築以外にも、私どもがお役に立てる可能性があると感じています。

専用サイトはこちら
<https://techbeat.jp/tech-beat-shizuoka/>



浜松いわた信用金庫と「相続手続きの共通化」を実施

2019年10月、地域のお客さまの利便性向上を目的として、浜松いわた信用金庫と預金などの相続手続きに必要な書類の共通化を実施。あわせて一定の基準を満たす場合には、相続人代表者1名のみでの署名・押印などで手続きを可能とするなど、取り扱いについても共通化・簡素化を図りました。

今後、静岡県内すべての地方銀行、信用金庫でも共通化を実施する予定です。



山梨中央銀行・NEXCO中日本と

地域活性化に向けた連携協定を締結

2019年7月、交流人口や物流の拡大、地域企業への販路拡大機会の提供などを通じた広域的な地域活性化を目的として連携協定を締結。

第1弾として、静岡県内の高速道路のサービスエリア・パーキングエリアに勤務する「エリア・コンシェルジュ」「テナント職員」を対象に「訪日中国人おもてなし力向上講座」を開催しました。

訪日中国人おもてなし力向上講座

【開催日】2019年9月6日
 【内容】中国出身の静岡銀行員を講師に「おもてなし中国語講座」を実施
 【参加者】47名



神奈川・山梨・静岡県境地方創生連絡会

「富士・箱根・伊豆・サイクリングマップ」をリニューアル



2019年8月、昨年3月に発行したサイクリングマップをリニューアル。新たに、県境をまたぐ「富士山一周コース」、東京2020オリンピック自転車ロードレース競技のコース解説、e-Bike(高性能の電動アシスト付スポーツ自転車)のレンタルスポットを追加しました。

「しずぎんハートフル株式会社」を設立

2019年10月、障がい者の一層の雇用促進を目的とした新会社「しずぎんハートフル株式会社」を設立。新会社では、おもに知的・発達障がい者を雇用し、静岡銀行から名刺作成や文書スキャン等の業務を請け負います。

将来的には、事業内容の拡充に応じて「障害者の雇用の促進等に関する法律」に基づいた「特例子会社」の認定に向けた申請を行う予定です。

特例子会社：障がい者の雇用に特別の配慮をした子会社のことで、厚生労働大臣から認定を受けた会社



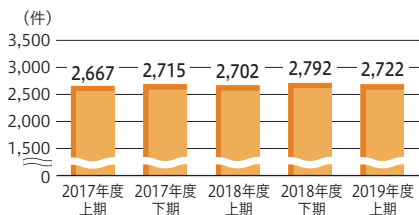
地方創生

地域の産業振興をサポート
～地域経済の活性化に向けたソリューションの提供

ビジネスマッチング

充実した店舗ネットワークと情報網を活用し、お取引先のニーズに応じた販売先・仕入先の紹介、各種商談会への出展支援などに取り組んでいます。

ビジネスマッチング件数推移



地方銀行フードセレクション2019

～地域色豊かな食材を求める仕入企業との商談の場を提供、地域の食品産業の発展をサポート

【開催日】2019年9月19日～20日
【会場】東京ビッグサイト(江東区)
【出展者】34社
【来場者】13,412名



「地域活性化応援団」として
大学生6名がバイヤーの呼び込みなど、出展企業を支援

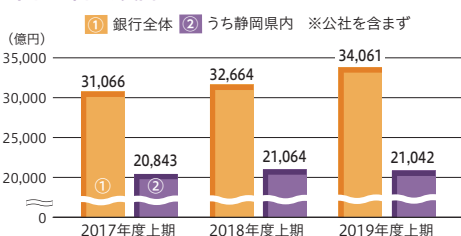
事業性評価

地域経済・産業の現況や見通しを踏まえて、お取引先の成長の可能性や事業の将来性を適切に評価する「事業性評価」を重視した融資を通じて、お客さまの事業や地域の発展を支えています。

主な実績

	2019年度上期実績
事業性評価用コベナンツ付融資 将来性やキャッシュフローを重視	206件 / 195億円
しずおか創生・地域企業応援ローン 地域資源の活用や雇用拡大をサポート	51件 / 95億円
ABL(資産担保融資) 在庫や動産の価値に着目した融資	37件 / 38億円
経営サポート資金・ターンアラウンド資金 経営改善・事業再生をサポート	46件 / 13億円

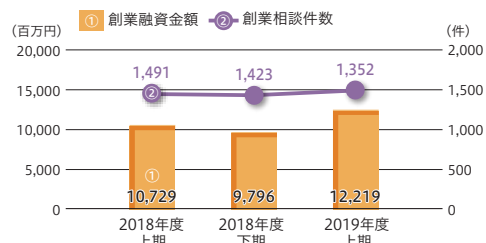
中小企業向け貸出金残高(平残)の推移



創業・新事業支援

地域の創業・新事業を支援するため、県内の各市町の創業支援機関と連携したサポートに取り組んでいます。

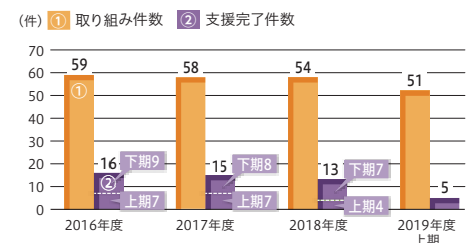
創業支援



経営改善・事業再生支援

お客さまの経営状態に応じて、中小企業再生支援協議会などの外部機関等と連携して事業再生のサポートに取り組んでいます。

事業再生支援取り組み件数



「しずおか観光活性化ファンド」投資第7号

～経営ノウハウや人的ネットワークの提供など幅広くサポート

【実施日】2019年8月29日
【投資額】8,000万円(社債引受)

投資先の概要

【企業名】株式会社 バイクーズパラダイス
【代表者】加藤 稔
【事業内容】バイクユーザーをターゲットにしたロードサイド複合施設



県境をまたぐ新たな観光スポットとして
富士箱根伊豆国立公園内(湯河原峠)にオープン!

「しずおかキッズアカデミー」の取り組みが「This is MECENAT 2019」に認定

2019年6月、公益社団法人「企業メセナ協議会」がメセナ活動を顕在化し、社会的意義や存在感を示すことを目的に実施する「This is MECENAT 2019」に認定されました。

「しずおかキッズアカデミー」は、2016年度に取り組みを開始して以来、14回開催し、約1,500名の親子が参加されています。

伊豆の名産“ところてん”のひみつやおいしいレシピを大研究!!

【開催日】5月11日 【参加者】親子16組48名

きみならなれる! 地球を守るリーダーに! 環境問題について考えよう!

【開催日】7月20日 【参加者】親子16組48名

山々に守られた水窪町の伝統文化を伝授!

【開催日】9月29日 【参加者】親子11組33名

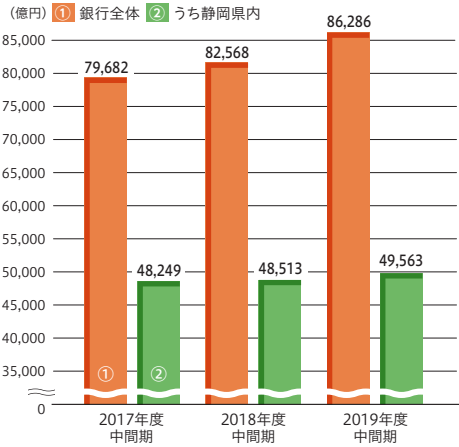


THIS IS MECENAT 2019

貸出金

2019年度中間期の貸出金の残高(平残)は、前年同期比3,718億円増加し、8兆6,286億円となり、このうち静岡県内向け残高は1,050億円増加し、4兆9,563億円となりました。

貸出金残高(平残)の推移

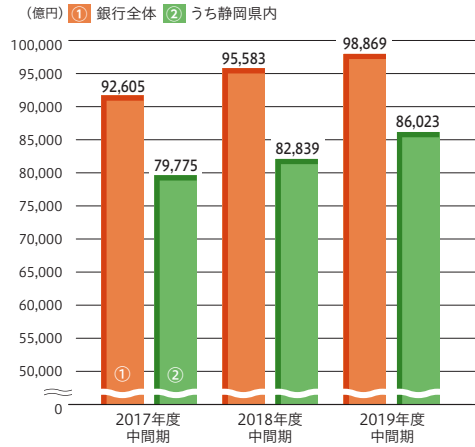


貸出金(平残)のうち
静岡県内の割合 **57.4%**

預金

2019年度中間期の預金残高(平残)は、前年同期比3,286億円増加し、9兆8,869億円となり、このうち静岡県内の残高は3,184億円増加し、8兆6,023億円となりました。

預金残高(平残)の推移



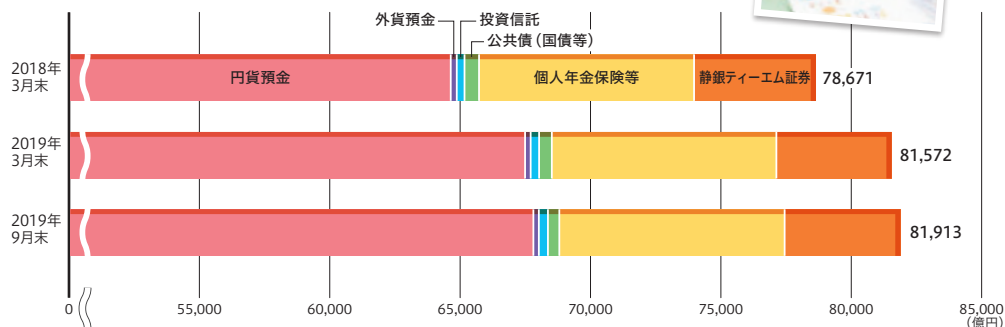
預金(平残)のうち
静岡県内の割合 **87.0%**

個人預り資産

2019年9月末の静銀ティーエム証券を含む個人預り資産の残高は、2019年3月末から341億円増加し、8兆1,913億円となりました。

個人預り資産(未残)の推移

※個人年金保険は残存する契約の時価ベースで記載しています。



ソリューション営業

相続・事業承継は「しずぎん」へ!

「相続」や「事業承継」に関するご相談に、法人・個人の担当者が連携し、お客さまのニーズを起点とした多面的かつ総合的な解決策をご提案します。

相続サポート

一体推進

事業承継サポート



2019年度上期実績

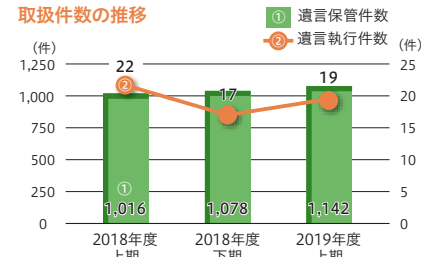
- 遺言信託成約 88件
- 遺産整理成約 19件



2019年度上期実績

- 資産有効活用 35件
- 自社株対策 275件
- オーナー相続 154件
- 資本政策 16件
- その他事業承継 77件

取扱件数の推移

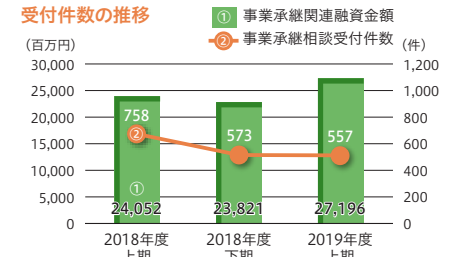


相続セミナー

従来の「相続・贈与・遺言」を中心としたテーマに、「終活・セカンドライフ」などの新たな項目を加えて開催しています。2019年度上期は、38会場で開催し、561名の方にご参加いただきました。



受付件数の推移



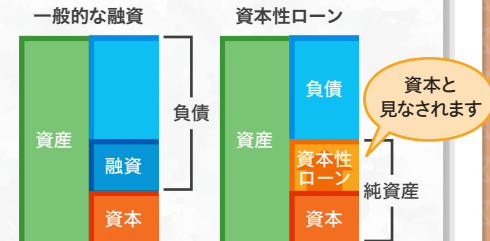
サポート事例

運送会社A社の会長は、自社株をはじめとした資産承継を検討されていました。静岡銀行では、株式集約による円滑な事業承継対策に加えて、生前贈与プランによる相続対策など、法人・個人両面での課題解決をサポートしました。

安定資金の確保、財務体質の強化につながる「資本性ローン」

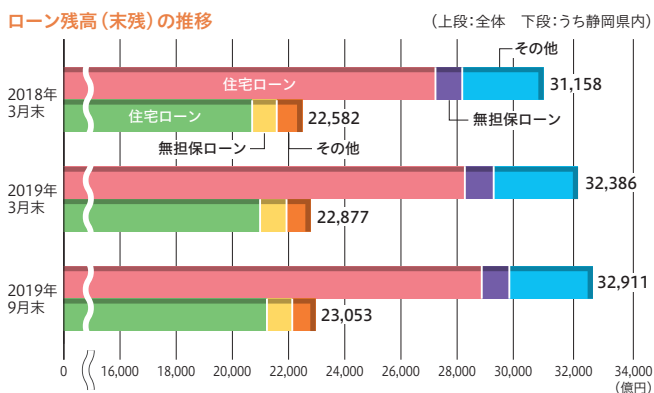
「資本性ローン」の内容を拡充し、将来、成長が期待できる事業や地域経済への貢献が高い企業への支援に取り組んでいます。

- 【対象先】** おもに中堅企業・中小企業
- 【POINT①】** 一定要件を満たせば、「負債」ではなく「純資産」と見なされ、財務体質の強化につながる
- 【POINT②】** M&A(合併・買収)や新規事業の開拓、創業など資金使途が幅広い



ローン

2019年9月末の個人のお客さま向けローンの残高は、3兆2,911億円で、住宅ローンを中心に、2019年3月末より525億円増加しました。



- ローンの内訳
 - 住宅ローン ■無担保ローン ■その他(資産形成ローン等)
 - うち静岡県内
 - 住宅ローン ■無担保ローン ■その他(資産形成ローン等)
- ※「住宅ローン」はアパートローンを含む

▶ローンセンター～専門スタッフがお相談にお応えします

2019年5月、東京都内初となる「新宿ローンセンター」をオープン。ローンセンター21店舗、ローンデスク(店舗内に設置したローン相談窓口)11カ所と充実したネットワークのもと、住宅をはじめ、車、教育、旅行資金など、各種ローンのご相談にお応えしています。また、非対面型の「ダイレクトローンセンター」も設置しており、受付から契約まで来店されずにご利用いただくことができます。



▶スマートフォンアプリ「しずぎんSTATION」をリニューアル



2019年9月、口座残高や入金明細を確認いただける「しずぎんSTATION」をリニューアルしました。また、静岡県・神奈川県のレストランで特別価格500円(税別)で利用できる「しずぎんSTATIONランチクーポン」の配信を再開。非対面チャネルを通じたお客さまの利便性向上を図るとともに、アプリ限定のお得な特典をご案内しています。

- 登録可能口座数の増加
従来1口座の登録 → 最大5口座まで登録可能
- 生体認証機能の拡大
従来iOS端末のみ利用可能 → Android端末でも利用可能

[家計簿ボタン]から Money Forward と連携

インターネット支店

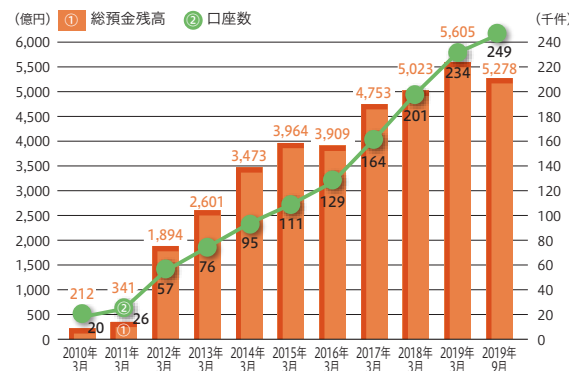
2019年9月、インターネットバンキングサービスのさらなるセキュリティ強化をめざして、「届出電話番号認証機能」を追加しました。このほか、株式会社NTTドコモが提供する「ドコモ口座」への即時口座振替サービスの提供を開始するなど、より便利で身近にご利用いただけるよう、機能の拡充や改良に取り組んでいます。



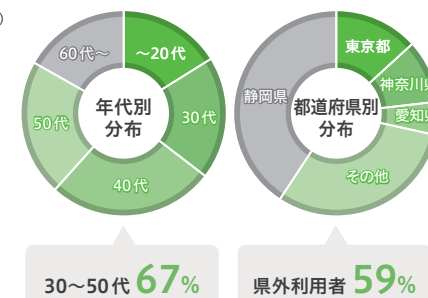
届出電話番号認証機能とは

ワンタイムパスワード(1回限りのパスワード)を不正に取得し、預金を振り込む不正送金を防止するため、銀行にお届けいただいた電話番号から、所定の認証電話番号へ発信いただくことで、お客さまの本人認証を行う仕組みです。また、従来、郵送で対応していた「ソフトトークン(ワンタイムパスワードのアプリ)」の利用解除手続きにも同機能を利用できることから、オンラインでの完結が可能となりました。

インターネット支店の預金残高・口座数推移



顧客構成 (2019年9月)



しずぎんECO口座

紙の通帳を発行しない「Web総合口座」、インターネット支店専用口座「WebWallet」を「ECO口座」として推進し、現在、新規に口座を開いたお客さまの約5割が「ECO口座」を開設されています。これにより、2018年10月から、紙の削減費用の一部を「富士山基金」に寄付しています。

寄付実績

2018年度下期	2019年度上期	2019年度下期
864,450円	1,039,900円	911,300円



富士山基金

特定非営利活動法人富士山世界遺産国民会議が運営する基金で、世界遺産の富士山を未来に継承するための保全活動や啓発活動に使われています。



2019年度上期の活動実績 参加人数のべ **717**人

会員数 **763**社 **1,127**名(2019年9月末現在)

内容	開催実績
セミナー(著名な経営者や専門家の講演会)	7回
ゼミナール(テーマを定め深く学ぶ講座)	17講座23回
エグゼクティブ	2講座 3回
ミドル	3講座 6回
ベーシック	12講座14回
視察会(体験を通じ知見を広める)	1回

特別セミナー
迷いが晴れる「心の授業」
 開催日 2019年7月6日
 講師 葉師寺副執事長(現 執事長) 大谷徹英氏



視察会

シリコンバレー視察団

開催日 2019年4月9日~15日
 訪問先 アメリカ合衆国 サンフランシスコ~シリコンバレー~ナパバレー

参加者の声

- 最先端のサービス、世界をリードする製品が次々と生み出される背景を肌で感じた
- イノベーションを起こすため、新たなチャレンジへの勇気がわいてきた
- 失敗を恐れず、成功を想像して、まずは行動することを実践したい



いつでも どこでも より便利にご利用いただくために ~決済手段の多様化への対応

クレジットカードの発行と加盟店ネットワークの拡大、さらには、各種スマートフォンQRコード決済サービスの対応など、お客さまのさまざまな決済ニーズにグループ体となって取り組んでいます。また、静岡銀行グループ各社は、2019年10月から開始した「キャッシュレス・消費者還元事業」におけるキャッシュレス決済事業者に登録されています。



クレジットカード等への取り組み

	業務	詳細	規模
静岡銀行	クレジットカード発行	しずぎんjoyca	約51万会員
	J-Debit	キャッシュカード	約254万枚
静岡ディーシーカード(株)	加盟店募集・カード発行	クレジット、銀聯、Ali pay等	約8千店/約6万会員
静岡セゾンカード(株)	クレジットカード発行	提携カード	約28万会員

他社ペイメントサービス(決済代行)との連携

	口座登録	クレジットカード登録		口座登録	クレジットカード登録
Origami Pay	○	○	d払い(ドコモ口座)	○	○
LINE Pay	○	—	楽天ペイ	—	○
Pay Pay	○	○	Amazon Pay	—	○
メルペイ	○	—			

しずぎんユーフォニア・コンサート

国内外の一流アーティストの演奏を地域の皆さまにお楽しみいただいています。



第68回 1966 QUARTET (2019年8月30日 沼津市)

ライトアップコンサート「威風堂々」

2001年から、浜松営業部本館のライトアップを開始するとともに、営業室内でのコンサートを行っています。



第18回 浜松商業高校吹奏楽部(2019年10月18日)

しずぎんカルチャー・フォーラム「しずぎん寄席」

落語会の開催を通じて、地域の皆さまに笑顔あふれるひとときをお届けしています。

第23回 林家正蔵・柳家三三 (2018年9月3日 静岡市)



スポーツ大会の支援

少年サッカー

11歳以下の静岡県チャンピオンを決める「しずぎんカップ静岡県ユースU-11サッカー大会」や、全国各地から子どもたちが清水に集う「全国少年少女草サッカー大会」に協賛しています。



少年野球

静岡県スポーツ少年団学童軟式野球大会に「しずぎんカップ」として協賛しています。



金融経済教育

金融講座

常葉大学、静岡産業大学で「金融講座」を開講し、地域金融機関が静岡県経済に果たす役割などを解説。このほか県内各地の学校などでも、金融や経済に関する教育を実施しています。



静岡県内の中学校・高等学校に「静岡県経済白書2019-2020」を寄贈

地域の子どもたちがより深くふるさとを理解するための参考書として、静岡県の経済・産業・地域の現況と課題などを解説した「静岡県経済白書2019-2020」を寄贈しました。



環境への取り組み ~豊かな自然環境を次の世代へ引き継ぐために

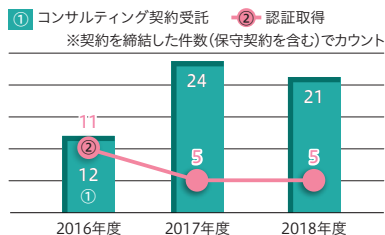
地域との共生をめざす基本理念「地域とともに夢と豊かさを広げます。」の実践に向けて、地域の環境保全に取り組んでいます。

金融業務を通じた取り組み

環境格付私募債「ECOBON(エコボン)」

環境保全に取り組む企業の資金調達をサポートするため、環境格付ランクに応じて金利を段階的に優遇する「環境格付私募債『ECOBON』」を提供しています。

環境格付とは
企業の環境に配慮した経営度合を評価し、その結果に応じて金利を優遇するなど取引条件を設定する。



経営コンサルティングサービスの提供

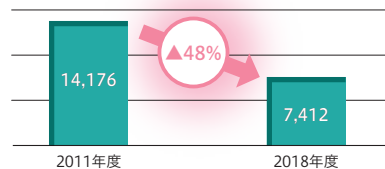
静銀経営コンサルティング株式会社では、お客さまの環境マネジメントシステム認証（「ISO14001」など）取得のサポートや、CO²排出量削減に関する「環境・温暖化コンサルティング」などのサービスを提供しています。

環境保全への取り組み

紙使用量の削減

「しずぎん本部タワー」では、ペーパーレス会議運営システムや電子協議・報告システムの導入により、業務の迅速化や生産性の向上に取り組むとともに、紙文書の発生を抑制し、環境負荷の軽減に努めています。

本部の文書発生量(紙資料の印刷面)



「小さな親切」運動

かけがえのない郷土の自然環境を守り、次世代につなぐため、静銀総合サービス株式会社内に静岡県本部を設置し、里山づくりやクリーン作戦などの環境保全活動に取り組んでいます。



賤機山に花の咲く樹を育てる会 (2019年4月21日)

天竜川中瀬緑地内の清掃 (2019年6月1日)



金谷童子沢公園の清掃 (2019年5月25日)

だれもがイキイキと働ける職場づくり ~従業員満足の上をめざして

多様な価値観をもつ従業員一人ひとりが仕事と家庭生活を両立し、やりがいを感じられる職場づくりに取り組んでいます。

働き方改革への取り組み

「ワークスタイル・イノベーション」の展開

これまで取り組んできた働き方改革を発展させ、「ワークスタイル・イノベーション」として新たなビジネススタイルを展開しています。



ドレスセレクトの導入(2019年8月)

ビジネススーツなど従来の画一的なドレスコードを見直し、ビジネスシーンに合わせて最適な服装を自分自身が決める「ドレスセレクト」を導入しました。

フレックスタイム制・在宅勤務制度の対象者拡大(2019年10月)

フレックスタイム制および在宅勤務制度の対象者を、原則として営業店を含む全行員に拡大し、従業員の自律した働き方とワークライフバランスを推進しています。



女性の活躍推進への取り組み

キャリアアップ支援

静岡銀行では、「2020年度末までに指導的地位(課長以上の役職者)にある女性を20%以上とする」目標を掲げ、マネジメントを担う人材の育成に力を入れ、積極的な登用に取り組んでいます。

指導的地位にある女性の比率

2016年度	2017年度	2018年度	2019年度上期
14.1%	15.0%	15.7%	16.1%



子育て支援

育児に取り組む従業員が安心して働くことができる環境を整備し、仕事と育児の両立を支援することを目的に、地域の企業と共同で事業所内保育施設「森のほいくえん」を運営しています。2010年7月の開園以来、40名の従業員が利用しています。

女性チーム「F*F(エフエフ)」を組成

ライフスタイルや就労観の多様化に対応するため、異なるライフステージにある女性行員で構成する特別チームを設置し、全役職員向けにアンケートを実施するなど、仕事・私生活の両面の充実を実感できる職場環境の実現に取り組んでいます。

第114期 営業の中間ご報告

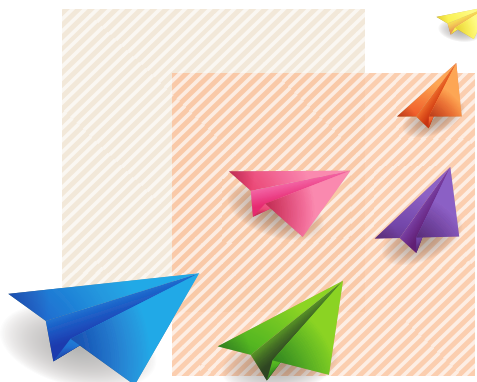
企業理念 地域とともに夢と豊かさを広げます。

静岡銀行の概要

2019年9月30日現在

設立	1943年3月1日
資本金	908億円
貸出金	8兆7,876億円
預金	9兆9,382億円
総資産	12兆1,977億円
連結自己資本比率	16.07% (うち普通株式等Tier I比率 16.07%)
従業員	2,865人
本店	静岡市葵区呉服町1丁目10番地 TEL(054)261-3131
店舗数	207店舗 静岡県内 173 (本支店152・出張所21) 静岡県外 31 (支店25・出張所6) 海外 3 (支店3)

(注)記載金額は億円未満を切り捨てて表示しています。



邦銀トップ水準の格付

2019年9月30日現在

静岡銀行は「ムーディーズ社」など国内外の3つの格付機関から、日本の大手銀行・地方銀行等のなかでトップ水準の格付を取得しています。

	長期格付
ムーディーズ	A1
スタンダード&プアーズ	A
格付投資情報センター	AA-

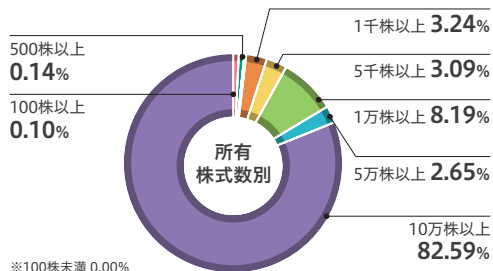
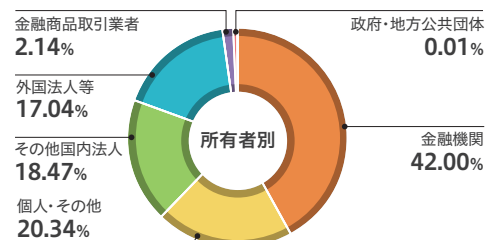
株式情報

2019年9月30日現在

株式の状況

株主数	21,926名 (2019年3月末比406名増)	発行済株式の総数	605,129,069株
		保有自己株式数	31,226,091株

株式の分布状況 (単元未満株式を含む)



株主還元の様相

DATA.01

第13次中期経営計画期間(2017~2019年度)における株主還元目標「中長期的に株主還元率50%程度」に則り、業績などを総合的に勘案し、2019年度の1株当たり配当額(年間)は公表どおり22円を予定しています。

配当額の推移

()は中間配当額

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度予想
1株当たり配当額(年間)	20円	21円	22円	22円(11円)
配当利回り(配当/期末株価)	2.20%	2.08%	2.60%	-

株主への利益配分の状況

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度予想	2014~2018年度実績(5年間)
年間配当額① (億円)	122	125	129	126	598(累計)
自己株式取得額② (億円)	85	97	101	86*	466(累計)
株主還元額③ = ① + ② (億円)	207	222	230	212	1,064(累計)
当期純利益④ (億円)	244	434	426	430	1,971(累計)
配当性向①/④×100 (%)	49.83	28.74	30.38	29.36	30.34(平均)
株主還元率③/④×100 (%)	84.60	51.16	53.99	49.41	53.99(平均)

*2019年5月10日開催の取締役会決議にもとづく取得価額の総額(上限)を記載しています。

健全性を示す「自己資本比率」(国際統一基準)

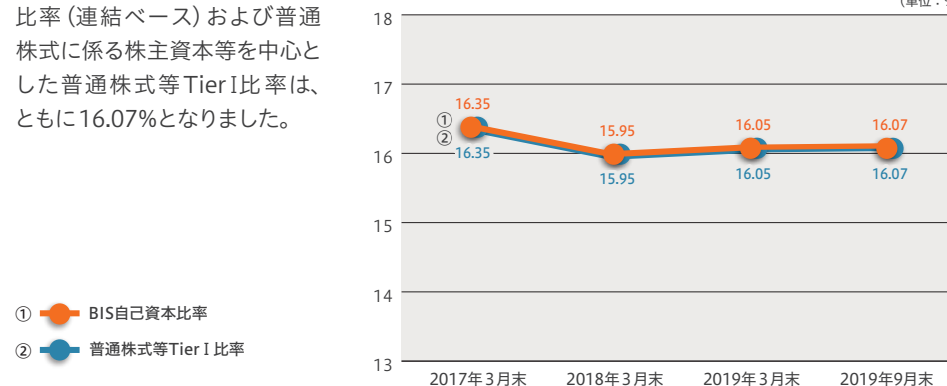
DATA.02

自己資本比率<国際統一基準>は、バーゼル銀行監督委員会が定めた基準により、リスクに応じて計算した「資産(リスク・アセット)」に対する「自己資本」の割合を示す国際的な指標です。

2019年9月末のBIS自己資本比率(連結ベース)および普通株式に係る株主資本等を中心とした普通株式等Tier I比率は、ともに16.07%となりました。

BIS自己資本比率(連結ベース)

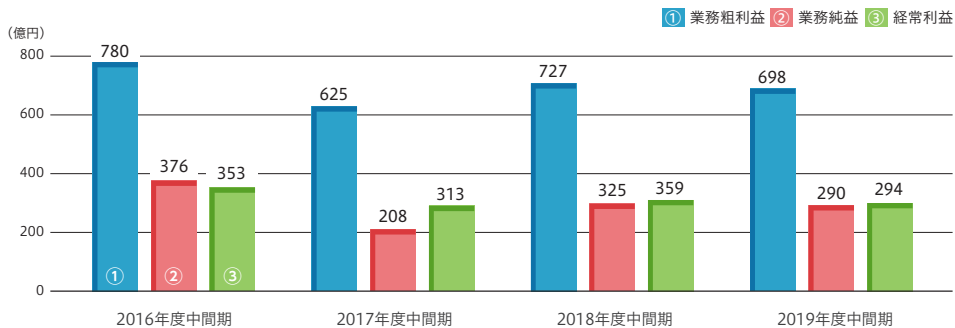
(単位: %)



業務粗利益・業務純益・経常利益の推移(単体ベース)

DATA.03

2019年度中間期の業務粗利益は、資金利益の減少などにより減益。業務純益も、経費が減少したものの、一般貸倒引当金が繰り入れに転じたため減益となり、経常利益についても、不良債権処理額の増加などを主因に減益となりました。



▶ 主な経営指標(単体ベース)

(単位:%)

	2016年度中間期	2017年度中間期	2018年度中間期	2019年度中間期	前年同期比
ROE(中間純利益)	2.89	4.92	5.86	4.49	△1.37
ROA(中間純利益)	0.23	0.41	0.51	0.37	△0.14
OHR(経費/業務粗利益)	51.58	66.77	56.88	58.05	1.17
1株当たり中間純利益(円)	20.82	37.04	47.80	37.41	△10.39

(注)前年同期比は、表上で算出しています。

ROE
[Return on Equity・自己資本利益率]

自己資本を使ってどれだけ利益をあげたか(資本の効率性)を示す指標です。この値が高いほど効率性が高いことを示します。

ROA
[Return on Assets・総資産利益率]

総資産を使ってどれだけ利益をあげたか(資産の効率性)を示す指標です。この値が高いほど効率性が高いことを示します。

OHR
[Over Head Ratio・経費率]

一定の業務粗利益を得るためにどれだけ経費をかけたかを示す指標です。この値が低いほど効率性が高いことを示します。

有価証券評価損益の状況

DATA.04

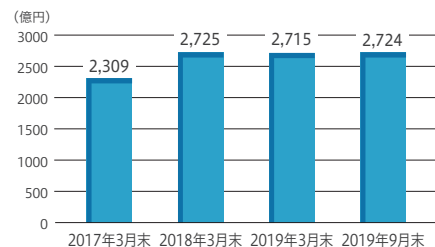
2019年9月末の株式・債券等の有価証券評価損益は+2,724億円と2019年3月末に比べ9億円増加、うち株式評価損益は+2,603億円と2019年3月末に比べ15億円減少しました。

(注)満期保有目的の債券、子会社・関連会社株式を除きます。

▶ 日経平均株価

2017年3月末	2018年3月末	2019年3月末	2019年9月末
18,909.26円	21,454.30円	21,205.81円	21,755.84円

▶ 有価証券評価損益(単体ベース)



リスク管理債権等の状況

DATA.05

リスク管理債権の状況(単体ベース)

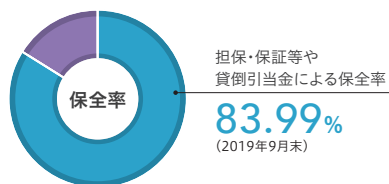
2019年9月末のリスク管理債権の総額は913億円、貸出金残高に占める割合は1.03%と2019年3月末に比べ減少しました。また、「担保・保証等」や「貸倒引当金」による保全率は83.99%となっています。なお、リスク管理債権から部分直接償却額62億円、信用保証協会の保証付貸出金339億円、担保・引当金等366億円を控除した実質的なリスク管理債権は146億円で、貸出金残高に占める割合は0.16%です。



▶ リスク管理債権の内訳

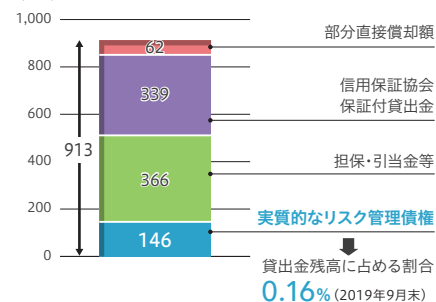
(百万円)

破綻先債権額	3,366 (0.03%)
延滞債権額	72,532 (0.82%)
3カ月以上延滞債権額	401 (0.00%)
貸出条件緩和債権額	14,992 (0.17%)



▶ 実質的なリスク管理債権

(億円)



金融再生法開示債権の状況(単体ベース)

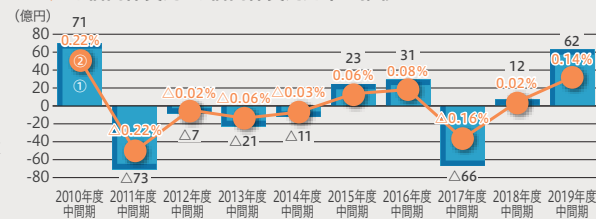
2019年9月末の「金融機能の再生のための緊急措置に関する法律(金融再生法)」施行規則にもとづく開示債権の総額は915億円、総与信残高に占める割合は1.02%、「担保・保証等」や「貸倒引当金」による保全率は83.99%となっています。

与信関係費用の状況(単体ベース)

2019年度中間期の与信関係費用は62億円、与信関係費用比率は0.14%となりました。

- ① 与信関係費用
= 不良債権処理額 + 一般貸倒引当金繰入額 - 貸倒引当金戻入益 - 償却債権取立益
- ② 与信関係費用比率
= 与信関係費用 / 貸出金平残

▶ 与信関係費用・与信関係費用比率の推移



決算情報 しずぎんの決算(連結・単体)をお知らせします。

(単位: 百万円)

中間貸借対照表(連結)

科目	2019年度中間期末	科目	2019年度中間期末
[資産の部]		[負債の部]	
現金預け金	1,163,339	預金	9,871,029
コールローン及び買入手形	351,983	譲渡性預金	205,291
買入金銭債権	39,939	コールマネー及び売渡手形	116,737
特定取引資産	15,644	売現先勘定	226,837
金銭の信託	4,000	債券貸借取引受入担保金	63,923
有価証券	1,543,176	特定取引負債	5,171
貸出金	8,763,942	借入金	400,344
外国為替	9,809	外国為替	597
リース債権及びリース投資資産	77,807	社債	34,194
その他資産	134,827	新株予約権付社債	32,388
有形固定資産	64,919	信託勘定借	256
無形固定資産	40,740	その他負債	108,332
退職給付に係る資産	9,243	退職給付に係る負債	19,836
繰延税金資産	2,897	役員退職慰労引当金	363
支払承諾見返	57,618	睡眠預金払戻損失引当金	615
貸倒引当金	△44,362	偶発損失引当金	1,262
投資損失引当金	△55	ポイント引当金	464
		特別法上の引当金	11
		繰延税金負債	66,479
		支払承諾	57,618
		負債の部合計	11,211,756
		[純資産の部]	
		資本金	90,845
		資本剰余金	54,884
		利益剰余金	712,938
		自己株式	△30,125
		株主資本合計	828,543
		その他有価証券評価差額金	193,970
		繰延ヘッジ損益	460
		為替換算調整勘定	△1,912
		退職給付に係る調整累計額	961
		その他の包括利益累計額合計	193,480
		新株予約権	343
		非支配株主持分	1,348
		純資産の部合計	1,023,715
資産の部合計	12,235,472	負債及び純資産の部合計	12,235,472

中間損益計算書(連結)

科目	2019年度中間期
経常収益	120,597
資金運用収益	69,037
(うち貸出金利息)	53,322
(うち有価証券利息配当金)	12,723
信託報酬	0
役務取引等収益	33,565
特定取引収益	1,462
その他業務収益	6,645
その他経常収益	9,886
経常費用	87,920
資金調達費用	15,341
(うち預金利息)	6,382
役務取引等費用	18,060
その他業務費用	0
営業経費	44,675
その他経常費用	9,842
経常利益	32,677
特別利益	400
特別損失	69
税金等調整前中間純利益	33,007
法人税、住民税及び事業税	9,768
法人税等調整額	△336
法人税等合計	9,431
中間純利益	23,576
非支配株主に帰属する中間純利益	41
親会社株主に帰属する中間純利益	23,535

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

中間貸借対照表(単体)

科目	2019年度中間期末	科目	2019年度中間期末
[資産の部]		[負債の部]	
現金預け金	1,152,314	預金	9,938,214
コールローン	351,983	譲渡性預金	209,591
買入金銭債権	39,939	コールマネー	116,737
特定取引資産	15,513	売現先勘定	208,227
金銭の信託	4,000	債券貸借取引受入担保金	63,923
有価証券	1,555,646	特定取引負債	5,173
貸出金	8,787,655	借入金	366,018
外国為替	9,747	外国為替	601
その他資産	108,032	社債	34,194
有形固定資産	61,011	新株予約権付社債	32,388
無形固定資産	41,141	信託勘定借	256
前払年金費用	7,872	その他負債	70,169
支払承諾見返	102,227	退職給付引当金	18,208
貸倒引当金	△39,321	役員退職慰労引当金	144
投資損失引当金	△55	睡眠預金払戻損失引当金	615
		偶発損失引当金	1,262
		ポイント引当金	408
		繰延税金負債	65,508
		支払承諾	102,227
		負債の部合計	11,233,871
		[純資産の部]	
		資本金	90,845
		資本剰余金	54,884
		資本準備金	54,884
		利益剰余金	654,413
		利益準備金	90,845
		その他利益剰余金	563,567
		自己株式	△30,125
		株主資本合計	770,017
		その他有価証券評価差額金	193,062
		繰延ヘッジ損益	413
		評価・換算差額等合計	193,476
		新株予約権	343
		純資産の部合計	963,837
資産の部合計	12,197,709	負債及び純資産の部合計	12,197,709

中間損益計算書(単体)

科目	2019年度中間期
経常収益	99,292
資金運用収益	70,075
(うち貸出金利息)	53,344
(うち有価証券利息配当金)	13,741
信託報酬	0
役務取引等収益	15,360
特定取引収益	293
その他業務収益	6,644
その他経常収益	6,918
経常費用	69,934
資金調達費用	15,435
(うち預金利息)	6,541
役務取引等費用	7,103
その他業務費用	0
営業経費	40,659
その他経常費用	6,735
経常利益	29,358
特別利益	411
特別損失	69
税引前中間純利益	29,700
法人税、住民税及び事業税	8,290
法人税等調整額	△219
法人税等合計	8,070
中間純利益	21,629

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

決算情報の開示について

静岡銀行では、経営内容や業績などをお知らせするため、決算情報をホームページに掲載しています。

<https://www.shizuokabank.co.jp/ir/financial/index.html>

連結子会社(13社)

- 静岡経営コンサルティング(株)
経営コンサルティング業務/代金回収業務
- 静岡リース(株)
リース業務
- 静岡コンピューターサービス(株)
コンピューター関連業務/計算受託業務

- 静岡信用保証(株)
信用保証業務
- 静岡ディーシーカード(株)
クレジットカード業務/信用保証業務
- 静岡キャピタル(株)
株式公開支援業務/中小企業再生支援業務

- 静岡ティーエム証券(株)
金融商品取引業務
- 静岡総合サービス(株)
人事・総務・財務関連業務
有料職業紹介業務

- 静岡モーゲージサービス(株)
銀行担保不動産の評価・調査業務
貸出に関する集中事務業務
- 静岡ビジネスクリエイト(株)
為替送信・代金立等の集中処理業務
労働者派遣業務

- 欧州静岡銀行
銀行業務/金融商品取引業務
- Shizuoka Liquidity Reserve Limited
金銭債権の取得

- しずぎんハートフル(株)
各種文書の作成・印刷・製本業務

持分法適用関連会社(3社)

- 静岡セゾンカード(株)
クレジットカード・プリペイドカード業務/信用保証業務
- マネックスグループ(株)
金融商品取引業務等を営む会社の株式の保有
- コモンズ投信(株)
投資運用業務/投資信託販売業務

※2019年10月1日現在



静岡銀行

<https://www.shizuokabank.co.jp/>



この印刷物には、環境に配慮した
植物油インクを使用しています。

本誌は、静岡県が制定した「カラーユニバーサルデザインのための指針」を参考に編集しています。